

令和7年度市政経営に係る市長方針評価

令和7年度は、第2次滝沢市総合計画前期基本計画の2年度目として各種取組を加速させる重要な年度となりました。人口減少や少子高齢化の進行、デジタル社会の進展など社会が多様化複雑化する中、本市では全世代の活躍を力に、市民主体活動の後押しと生活インフラの維持、セーフティネットの堅持を推進してまいりました。「やさしさに包まれた滝沢」の実現に向け、市民の皆様に市が変わったと感じてもらえるよう取り組んだ令和7年度の市政経営について、次のとおり取りまとめました。

なお、市域全体計画における7つの政策の令和7年度評価は、全て「おおむね達成した」との評価です。また、政策ごとに設定している指標の進捗状況についても、全11指標で令和7年度目標値をすべて達成していることから、令和7年度の事務事業全体は、進展しているものと評価します。

※各項目の評価は、取組の進捗状況に応じて次の3段階に区分しています。

- ・進展している
- ・一定程度進展している
- ・進展していない

1 市民対話及び市民参画

【評価】一定程度進展している

市民の困りごとの解決や市民主体の地域づくりをサポートするため、行政に対する市民ニーズの把握と対話の機会充実に努めました。「市長と話そう」や「タウンミーティング」を通じて市長・職員が積極的に現場に出向き、双方向の意見交換を推進したほか、「たきざわ自分ごと化会議」の継続開催により、市政への関心が薄かった層の参画と議論の機会を創出しました。

また、地域づくり懇談会への職員参画を通じた協働の推進など、社会的包摂性の高い地域社会を目指す取組が着実に進展したと評価します。

2 効果的・効率的な行政運営の推進

【評価】一定程度進展している

多様化する市民ニーズに対応するため、デジタル技術の活用や事業手法の精査による経営資源の最適化を推進しました。全庁的な生成AIの導入による業務効率化や、基幹業務システムの標準化移行を完了させました。

また、住民税申告の電子化や家屋調査のオンライン予約、受付票自動作成システムの導入などフロントヤード改革を進め、利便性を向上させました。財政面では施設跡地の売却による自主財源確保や、庁舎大規模改修の範囲精査による事業費圧縮に努めた点を評価します。

3 活力ある地域づくりに向けた取組

【評価】一定程度進展している

各ライフステージで“選択され、住み続けられる”自治体を目指し、人口維持と活力ある地域社会の基盤づくりを進めました。中心拠点商業地区における市道向新田線の開通と、民間開発による商業施設の開業は、雇用の創出と賑わい・交流の核を形成する大きな成果となりました。

また、「若者活躍応援制度」の新設や「滝沢ミライプロジェクト」の推進により、若い世代のチャレンジを支援しました。ふるさと納税を活用したクラウドファンディングや、盛岡都市圏地域公共交通計画の3市町共同策定など、将来へ引き継ぐための基盤が整えられました。

4 5つの重要な視点に基づく取組

(1) つながる滝沢

【評 価】一定程度進展している

「地域別計画」の推進に向け「滝沢地域づくり活動推進補助事業」による支援を行い、市民主体の活動を後押ししました。また「若者活躍の場づくり推進事業」による人材定着の取組や、多様性を尊重する「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」が構築できました。一方で、地域活動の担い手不足や高齢化、集会施設の老朽化は看過できない課題であり、今後の地域コミュニティの在り方や負担軽減、効率的な管理運営手法について地域と連携しながら検討を深める必要があります。

(2) こどもまんなか滝沢

【評 価】進展している

子どもを安心して産み育てられる切れ目ない支援体制を強化しました。育ちの相談体制として「5歳児健康診査」を新たに導入・実施したほか、産後ケア事業での直営デイサービス開始など、妊娠期から子育て期までのサポートを拡充しました。

また、子ども医療費給付の所得制限撤廃・対象拡大を継続し経済的負担を軽減しました。幼児教育・保育施設の待機児童解消や、学童保育クラブのLED化・冷暖房工事等の環境改善も着実に実行されました。今後は、サービスの更なる質的向上と居場所づくりが求められます。

(3) いきいき滝沢

【評 価】一定程度進展している

誰もが自分らしく健康で安心して暮らせる社会の醸成を進めました。「重層的支援体制整備事業」の本格実施に伴い、重層的支援会議等を開催して複雑な相談を受け止める多機関連携体制の強化を図りました。高齢者支援では、地域公共ケアシステムの深化に向けた委託型センター設置の検討や、介護予防教室を継続しました。

また、各種医療費給付事業における所得制限の緩和・撤廃を新たに実施し、がん患者への胸部補整具助成等を開始するなど、福祉の基盤とセーフティネットの強化に大きく繋がったと評価します。

(4) まなぶ滝沢

【評 価】進展している

大学の立地という強みを活かした学びの機会創出と、教育環境の整備を推進しました。「大学未来共創事業」により若者の実践活動に伴走し、「リカレント教育推進事業」では大学等と連携した多様なテーマのセミナーやSDGsセミナーを開催しました。学校施設整備では「小中学校校舎等改修事業」を重点事業とし、屋内運動場や放送設備の改修、高圧受変電設備の更新などを計画的に進めました。

また、学校規模適正化に向けて姥屋敷小中学校統合準備委員会を設置し、望ましい教育環境の確保へ着手した点を評価します。

(5) はたらく滝沢

【評 価】一定程度進展している

若者を中心とした市民が自分らしく働くことができる環境づくりと、産業の活性化を推進しました。「ICT産業集積拠点整備事業」としてIPUイノベーションパークの拡張基本計画を策定し、用地取得に向けた手続を進めました。

また、産業人材育成事業ではIT人材の育成や就職・起業支援を展開しました。農業分野では、「農業担い手育成対策事業」を通じた新規就農PRや、地域計画の実践支援により市内に12の組織が設立されるなど、将来の担い手確保と持続可能な農業に向けた確かな基盤が形成されました。